第１　事業の概要

平成２８年度は、一般財団法人としての４年目であり、継続事業として「日本学の総合研究・普及」、「日本学に関する講演会・講習会の開催」、「日本学に関する雑誌・図書の刊行」の３事業を実施し、当協会の目的である学術文化の発展に寄与すべく尽力したところである。

第２　事業の実施状況

１　日本学の総合研究・普及(継続事業１)

本事業は、広範かつ多岐にわたる日本学の総合研究を研究者の個人研究、共同研究あるいは研究会を通じて行うとともに、その普及を図るものである。

（１）研究及び研究会

研究者は、大学教授、高校教諭、評論家などの本会の研究員をはじめ、本会の趣旨に賛同する研究者であるが、専任研究員として委嘱した１４名については、「協会創立６０周年記念事業実施計画」で指定した研究項目の研究を引続き行ったところである。

研究会については、東京における学生対象の古典講読の研究会を実施したほか、地方（水戸、伊勢、岐阜、大阪等）においても地域の特性に応じた定例研究会を行った。

（２）公開研究会

平成２３年度から実施している公開研究会は、平成２８年度も引き続き「日本の近現代戦史に学ぶ会」と「先哲に学ぶ会」に代るものとして新たに「日本学講座」を実施した。

「日本の近現代戦史に学ぶ会」は、「日米戦争の史実に戦いの本質を考える」をテーマに、下記の通り永江太郎氏が、発表を行った。

日　時	発　表　者	演　題
第 12 回 H28.6.18(土)	元防衛研究所主任研究官 永江太郎	「終戦をめぐる諸問題」 ―敗戦の分析と今後の課題―

「日本学講座」は、「日本の発展に尽くした人々」及び「歴史上の重要な事案」をテーマに、下記の通り４氏が、それぞれの演題について発表を行った。

日　時	発表者	演　題
第１回 H28.7.9(土) 14：00～16：00	水戸史学会副会長 安見隆雄	「『新論』の著者・会沢正志斎」
第２回 H28.9.10(土) 14：00～16：00	京都産業大学名誉教授 所　功	「穂積陳重・八束兄弟―その家族国家論を中心に」

第３回 H28.11.19(土) 14：00～16：00	みことのり普及の會 副会長 佐藤健二	「現代に蘇る山鹿素行-その皇室論を考へる-」
第４回 H29.3.11(土) 14：00～16：00	全生庵住職 平井正修	「山岡鉄舟居士と武士道」

（３）研究成果の普及

研究成果の論文等は、学術誌『藝林』と機関誌『日本』に発表した。

以上の研究事業の概要は、下記のとおりである。

研究者の学会発表回数：１５編	『藝林』発表論文
研究者の論文発表回数：６９編	『日本』発表論文
定例研究会	開催数４８回　参加者：約３９０名
公開研究会	開催数　５回　参加者：　３１０名

２　日本学に関する講演会・講習会の開催(継続事業２)

本事業は、日本学普及のために行っている講演会、藝林会学術研究大会、講習会の事業である。

（１）講演会

平成２８年度は、東京講演会（第１３回）を平成２８年４月１６日(日)、靖国会館において、「「楫取素彦（小田村伊之助)」の真姿」と題して（講 師　元拓殖大学総長　小田村四郎)、また大阪講演会（第１４回）は同年１０月２６日(日)、国民会館において「いよいよ尖閣が危ない！ ～尖閣諸島の現状と今後の日中関係～」と題して（講師　衆議院議員　山田賢司）開催した。

（２）藝林会学術研究大会

藝林会学術研究大会は、毎年テーマを設けて開催し、記念講演、研究発表等を行っているが、第１０回目となる平成２８年度は、平成２８年１１月２６日(土)、福井市立郷土歴史博物館(福井市)において「白山信仰をめぐる諸問題」を主題に、研究発表(「白山信仰をめぐる諸問題の概要」金沢工業大学教授 平泉隆房、「泰澄大師の出自と『泰澄和尚伝記』」福井市立郷土歴史博物館館長　角鹿尚計、「国宝称名寺聖教『上素帖』にみる平泉寺堂供養表白について」昭和女子大学非常勤講師　阿部美香、「岐阜県神光寺蔵　白山曼荼羅の特色について」福井県立歴史博物館学芸員　河村健史、「平泉寺の発掘調査から見えてきたもの」　福井県勝山市教育委員会　宝珍伸一郎)及び相互討論を行った。(発表論文等は、『藝林』第６６巻第１号に掲載する。)

（３）講習会

講習会は、日本学を高校生や大学生、社会人等の青少年に普及するために２泊３日の合宿形式で実施しているが、平成２８年度も「わが国と日本人のあり方を考える」をテーマに奈良・大阪で実施した。

内容は、大学教授等各界の専門家による講義、講話をはじめ参加者の相互討議や意見交換、史跡見学等により日本の歴史や先哲について理解が深まるようきめ細かい指導を実施した。

（４）開催結果

定例講演会（東京・関西）	参加者：１０１名
藝林会学術研究大会	参加者：　７３名
講習会	参加者：　５９名

（５）広報活動

定例講演会、藝林会学術研究大会、講習会の開催は、ホームページを始め、その都度、新聞(『産経新聞』)及び月刊誌(『正論』)で、会員以外にも広く参加を呼びかける広告を実施した。

３　日本学に関する雑誌・図書の刊行(継続事業３)

本事業は、日本学に関する研究成果の発表並びに普及を図るため、学術誌『藝林』と機関誌『日本』を発行するとともに日本学に関する図書の刊行および出版助成等を行うものである。

（１）学術誌『藝林』の編集・刊行

『藝林』は、国民の道義を高揚し日本文化を向上させるため、真摯で自由な学問的研究を行うことを目的に設立された藝林会の学術誌である。歴史・文学・思想などの人文系学問の研究成果を発表する場として、会員のみならず広く一般から寄稿された論文を掲載している。平成２８年度は、 第６５巻第１・ ２号を刊行した。

（２）機関誌『日本』の編集・刊行

『日本』は、広く日本学を普及するために刊行している月刊誌である。

執筆者は、評論家、大学教授をはじめ各界の専門家、有識者等で、内容は政治、経済、歴史、文学など幅広い分野にわたっているが、投稿も掲載している。平成２８年度は第６６巻第４号～第６７巻第３号を刊行した。

販売・頒布は、定期購読者以外にも、講演会・講習会や公開研究会で実施したほか、有識者への寄贈や学生には購読料を半額とするなどして普及に努めた。

（３）図書の刊行

ア、図書は、『平泉澄著作集』の電子化刊行の研究と準備を実施した。

イ、『続平泉澄博士神道論抄』を刊行した。

ウ、『首丘の人　大西郷』を復刊した。

（４）研究成果発表関係刊行物

ア　定期刊行物

名　　称	頁　　数	発 行 部 数	備　　考
藝　林	２５０頁	３５０部	年２回刊行
日　本	５２頁	９５０部	年１２回刊行

（５）広報活動

『藝林』と『日本』の広報は、年に６回新聞広告（『産経新聞』）等を行った。